

2022年6月17日
RECSIE主催・国際教育夏季研究大会（SIIEJ）プレセミナー
プレ・イベント1 Pre-Conference Event 1

ラウンドテーブル「国際教育競争資金がもたらした歴史的な意義と今後の課題」
Roundtable: The Historical Significance and Future Challenges of International
Competitive Funding for Education



早稲田大学及び競争的資金全体の視点

黒田一雄

早稲田大学大学院アジア太平洋研究科長・教授



早稲田大学の国際化競争資金獲得の実績

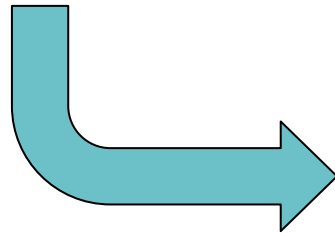
大学全体を対象としたものは、

- 大学国際戦略本部強化事業（2005－2009年度）
- 大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業（G30、2009－2013年度）
- 経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成推進事業（GGJ、2012－2016年度）
- スーパーグローバル大学創生事業（SGU、2014－2023年度）等

活用事例：G30以降の英語で提供される教育プログラムの増進

- ◆ **これまで**
 - ✦ **学部課程**
国際教養学部のみ
 - ✦ **大学院課程**
アジア太平洋研究科・国際情報
通信研究科・情報生産システム
研究科・早稲田ビジネススクール

**1学部・4研究科から
7学部・12研究科に拡大**



- ◆ **2010年秋以降に徐々に全学に拡大
学部課程**
国際教養学部・社会科学部
政治経済学部・文化構想学部
基礎理工学部
創造理工学部
先端理工学部
- ✦ **大学院課程**
アジア太平洋研究科・社会科学研究科
国際情報通信研究科・法学研究科
情報生産システム研究科・
早稲田ビジネススクール
政治学研究科・経済学研究科
基礎理工学研究科・創造理工学研究科
先端理工学研究科・文学研究科

**文部科学省
「グローバル30」の効果**

◆ スーパーグローバル大学創成支援事業の10年間で、 「Waseda Vision 150」の改革を加速し実現

早稲田大学のあるべき姿

早稲田大学教旨

「世界の学問に裨補せん事を期す」
「時世の進運に資せん事を期す」
「広く世界に活動す可き人格を
養成せん事を期す」

建学の理念から
Waseda Vision 150 へ



Waseda Vision 150

- 世界に貢献する高い志と人間力・洞察力を持った
グローバルリーダーの育成
- 世界の平和と人類の幸福の実現に貢献する
独創的研究の推進
- 自律的に改革し続ける
進化する大学の仕組みの創設

早稲田大学 中長期計画
「Waseda Vision 150」

一体的に運用

スーパーグローバル大学創成支援
「Waseda Ocean 構想」

SGU事業期間



－ Waseda Vision 150 事業期間（2012～2032） －

考察

- ❖ 外部資金の導入は、大学として実現したい国際化・改革が明確にある場合に、大きな効果を発揮し、持続可能なインパクトをもつ。⇒理念やビジョンが学内で共有されていることが重要。
- ❖ 資金があるからと計画したプログラムは持続可能性が低く、失敗の例も。
- ❖ 資金終了後の持続可能性を意識したプログラムデザイン（特に、入学枠のある教育プログラムの創設等）が重要。

部局で獲得した競争資金－大学の世界展開力強化事業

採択年度	事業名称	連携大学
2011	アジア地域統合のための東アジア大学院（EAUI）拠点形成構想	北京大学、高麗大学校、タマサート大学、南洋理工大学
2011	早稲田大学グローバル・リーダーシップ・プログラム	コロンビア大学、ジョージタウン大学、ペンシルベニア大学、カリフォルニア大学バークレー校、ワシントン大学
2012	「日本語教育学」総合学習プログラムを通じた重層的・循環的人材育成事業	パジャジャラン大学、シンガポール国立大学、タマサート大学、チュラーロンコーン大学、デ・ラ・サール大学、マラヤ大学
2013	AIMS7 多言語・多文化共生プログラム	マラヤ大学、インドネシア大学、タマサート大学、チュラーロンコーン大学、デ・ラ・サール大学、ブルネイダルサラーム大学
2016	多層的紛争解決・社会変革のためのグローバルリーダー共同育成プログラム	北京大、高麗大学校
2021	文明間対話促進のための文化的知性を備えたソーシャルイノベーター共同育成プログラム	北京大学、高麗大学、シンガポール国立大学

＊とれているように見えるが、近年は実は苦戦。また、補助額が少なくなり、学内で申請部局を探すのにも苦労。

大学の世界展開力強化事業 EAU Program

北京大学、高麗大学校、タマサート大学、ナンヤン理工大学

Asian Regional Integration Program

DA
UNIVERSITY

1. Semester Student Exchange ⇒定着・修了証の発行継続 Non-Degree ⇒Double Degree Program(PhD/MA Sub Major)

Mutual credits transfer by ACTS /Unified credits transfer grade management system to prepare for implementation of Double Degree Program

2. Summer School/Winter School ⇒自己財源で実施継続

Summer School hosted by Waseda /Winter School hosted by 5 Universities in turn

3. Internship

Providing students with internships opportunities at organizations such as ASEAN Secretariat, ERIA, ADB etc

4. Research Collaboration (Int'l Symposium, Workshop, Working Paper, Textbooks)

PhD students involving joint research on "Asian Regional Integration" & making presentations for research achievements

5. Joint Faculty/Staff Meeting, Faculty Exchange

Development of curricula, Discussion to implement unified /common academic system , Strengthening of student support

6. Evaluation Committee

Program achievements through each academic year will be evaluated every end of academic year by the committee.

Support System for Quality Assurance



WASEDA UNIVERSITY

早稲田大学グローバルリーダーシッププログラム (GLP)

文部科学省「大学の世界展開力事業」として採択され、2011年に開始。

GLPパートナー大学;

- ・ワシントン大学
- ・カリフォルニア大学バークレー校
- ・コロンビア大学
- ・ジョージタウン大学
- ・ジョンズホプキンス大学(2013-)
- ・ダートマス大学(2014-)

GLPは早稲田から米国のパートナー大学に留学した学生が帰国後、これらの大学から早稲田に留学した学生と共に、世界的・アジア的課題を学ぶことにより、日米両国の真のグローバルリーダーシップを育成することを目的に実施。

⇒コロナで現在停止中だが、それまでは資金終了後も継続実施。(ただし、財源や人員の確保にはかなりの困難があった。)



WASEDA UNIVERSITY

早稲田におけるGLPカリキュラム

日米共同ゼミ

ゼミ 1
政治学

ゼミ 2
歴史学

Fellows conduct individual and/or joint research projects related to an issue of global significance arising in the **Asia-Pacific region**.

グローバルリーダーシップ・フェローズフォーラム

All Waseda and U.S. Fellows meet together to plan and arrange guest lectures and discuss and debate global issues of particular interest.

Guest Lectures

Field Trip

Debates

Panel Discussion

各学部での英語講義の履修

School of Political Science and Economics

School of Commerce

School of Science and Engineering

School of Social Science

School of International Liberal Studies

*Center for Japanese Language

Optional インターンシップ、ボランティア活動、フィールドワークなど

⇒プログラムを作りこんだことは、資金終了後の継続には大きな障害となった。



考察

- 有期の外部資金を前提とした教育プログラムの新設は補助期間終了後に破綻する可能性がある。
- 資金終了後の持続可能性を意識したプログラムデザイン(交換協定の締結や国際共同学位プログラム等)が重要。
- 本部と部局の連携ができているかで、プログラムの成否や持続可能性が左右される。

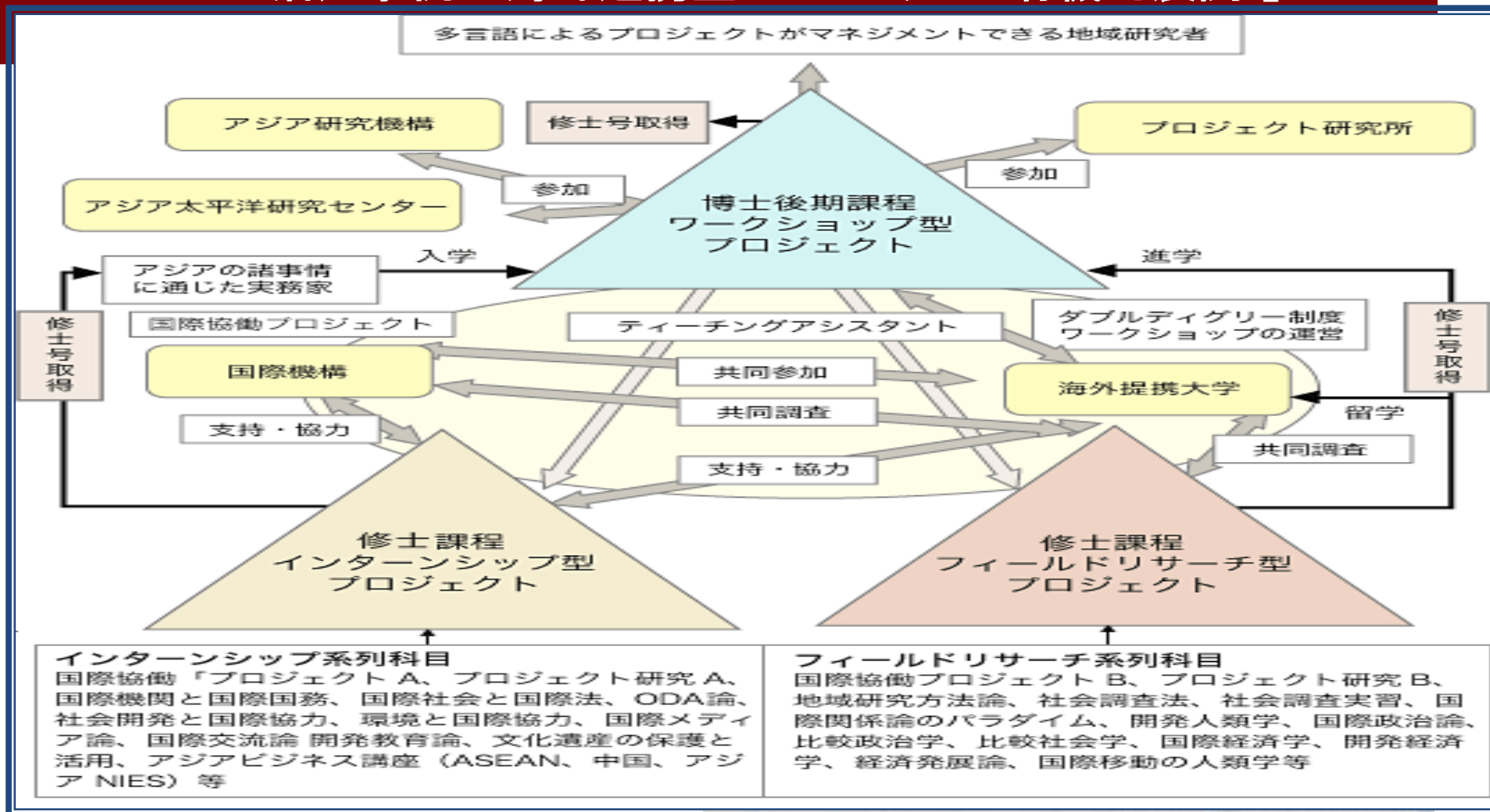


部局の事例：アジア太平洋研究科

- 文部科学省「21世紀COE」(2002－2007) (政経とともに)
“Creation of New Contemporary Asian Studies”
- 文部科学省「魅力ある大学院教育イニシアチブ」(2005-2007)
“Systematic Development of International Joint Projects”
- 文部科学省「グローバルCOE」(2007-2012)
“Global Institute for Asian Regional Integration”
- 文部科学省「組織的な大学院改革推進プログラム」(2008-2011)
“Joint Program for Developing Advanced Human Resources in East Asia”
- 文部科学省「大学の世界展開力強化事業」(2011-2016)
“East Asian University Institute (EAUI) for Asian Regional Integration”
- 文部科学省「国費留学生優先配置プログラム」(2006-現在)
- 国際協力機構「日越大学創設事業」(2018-現在)
- 国際協力機構「開発大学院連携プログラム」(2019-現在)
- 国際協力機構「JDS」「長期研修員」等。



活用事例:「海外連携型プロジェクトの有機的展開」



⇒自己財源による海外ゼミが定着

考察

- 部局レベルで各教員がその教育効果を実感することができると、持続可能性が高くなる。
- 資金終了後の持続可能性を意識したプログラムデザイン(国際共同教育プログラムや共同学位プログラムや等)が重要。
- 資金補助がないものでも、有効なものがある。
- 日本の大学全体の国際化のポテンシャルを引き出すためには、総合大学の部局や小規模大学が応募できるような、中小規模の案件を数多く出していくことの方が意義があるのではないか。

早稲田におけるその他の国際化のための外部資金獲得実績

✪ 文科省以外の政府系資金

JICA・日越大学・EJUST、SATREPS、外務省、国際交流基金等

✪ 日本の民間からの資金

政経グローバルリーダー養成ファンド、原口記念基金、日米研究インスティテュート・国際学生寮WISH等への日本企業・個人からの寄付等

✪ 外国政府機関の資金・寄付講座

孔子学院、DAAD、ユヌス・エムレ、カタールチェア、EUエラスムス等
—国際共同研究推進・語学関連が多い

✪ 外国民間からの寄付

頂新集団、百賢教育基金、サハグループ、米国の交換学生OBOG等
—米国やアジアに寄付文化

考察

- ❖ 文科省の競争資金以外にも、国際化のための外部資金獲得の可能性はある。
- ❖ 資金提供者の意図に沿いながらも、大学の目指すべき方向性と一致させ、調整することが必要。
- ❖ 奏功すれば、長期的な支援につながる可能性も大きい。



Thank you!